

II 指導・相談業務
(年次報告(平成23年度後期・24年度前期))

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2014-04-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 原沢, 伊都夫, 袴田, 麻里 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00007678

Ⅱ 指導・相談業務

原沢 伊都夫／袴田 麻里

静岡大学国際交流センターには、指導・相談だけを専門に担当する教員はいないが、静岡キャンパスは原沢が、浜松キャンパスは袴田が日本語教育と並行する形で指導・相談業務の窓口を担当している。チューターの指導に関しては、「留学生チューターのしおり」と「指導教員の手引き」を作成し、留学生の支援に役立てている。

〈静岡キャンパス〉

静岡キャンパスにおける留学生の指導・相談業務であるが、平成18年度後期より、英語のできる専門カウンセラーの相談業務を開始している。24年度も引き続き、隔週水曜日の午後、カウンセラーが来学している。基本的にセンターで日本語を学ぶ留学生は全員面接を受けるように指導しているが、最近様々な問題を抱える留学生が増えていることから、自分の悩みを相談する良いきっかけとなっている。精神的な支援を必要とする留学生数が増えているので、そのような学生に専門家の立場から適切な処置が図られていることは留学生にとって大きなサポートとなっている。

また、相談担当の教員だけでなく、その他の教員も日常的に留学生の相談に乗っており、全員で留学生の支援に当たっている。このような留学生に対する相談業務とは別に、全学学生に対する留学相談がある。本学の大学間交流校であるネブラスカ大学（アメリカ）、アルバータ大学（カナダ）、朝鮮大学校（韓国）には連絡教員が任命されており、センター専任教員と運営委員の2名体制となっている。したがって、ネブラスカ大学やアルバータ大学留学を希望する学生をはじめ、海外に留学する希望をもっている学生からの相談もある。平成20年度より、国際交流チーム（当時）を中心に海外留学説明会を学内で開催しており、夏季語学研修旅行や交流校への交換留学、ILUNO留学を希望する学生からの相談をセンター教員全員で分担して受けている。詳細は「Ⅳ. 海外学生派遣」の項を参照していただきたい。現在多くの学生が海外の協定校へ留学生として派遣されているが、メールによる近況報告が国際交流チームを通じて行なわれ、センター会議で学生の留学状況が確認、共有されている。

チューターに関して、チューター制度の内容を見直し、各学部と連携をとりつつ、指導教員およびチューターに対し、チューター制度を正しく理解し、運用するようにする取り組みを行っている。現在、最新の情報を入れ、内容の大幅な修正を行っている。国際交流課では、各学部のための「外国人のチューターに関する要項」をまとめ、全学で統一した運用が図れるようになった。（以上、原沢）

〈浜松キャンパス〉

23年度後期、24年度前期とも、来日したばかりの留学生と留学生カウンセラー（非常勤で隔週木曜、日・英語で対応）の顔合わせの時間を作り、相談室の場所やカウンセラーを知ることができるよう工夫した。

センター教員による相談業務では、23年度後期に延べ270件、人数は203人だった。24年度前期は、295件で、242人から相談があった（表1、表2）。

表1：相談者の内訳

項目	内訳	後期	前期
相談人数	合計	203	242
属性	留学生、外国人研究者	136	126
	日本人学生	20	67
	教職員	25	36
	学外	22	14
所属	工学部・研究科	102	128
	情報学部・研究科	52	71
	創造科学技術大学院	23	21
	その他の所属	1	8

表2：相談内容の内訳

集計期間	総計	言語	住居	生活	進路	履修	就職	教育内容	奨学金	経済状況	バイト	チューター
24.04.01. - 24.09.30.	295	46	17	10	17	28	9	3	7	2	4	2
23.10.01. - 24.03.31.	270	57	11	16	10	14	29	0	23	4	4	2

集計期間	健康	行事	在留資格	授業料	人間関係	図書貸出	地域	ボランティア	ホームステイ	留学相談	挨拶	その他
24.04.01. - 24.09.30.	3	24	12	1	10	2	12	21	2	41	2	20
23.10.01. - 24.03.31.	3	4	5	4	1	6	2	8	26	10	10	21

単位不足による在留資格更新不許可を防ぐため、19年度より半年ごとに部局の教員と学部留学生の成績チェックを行っている。半期ごとに成績をチェックし、成績、出席に問題がうかがえる留学生には早期に指導を行う体制を整えたが、24年度に工学部で3名が留年することが判明した。工学部留学生担当教員との連携を再構築する必要がある。

留学生対象の入学時ガイダンスは、4月・10月に学籍を得た留学生に対して、部局のガイダンス前に得て実施した。留学生担当教職員の紹介、留学生に特有の手続きについて詳しく説明し、留学生支援ボランティアが交流を兼ねて構内を案内した。国際交流会館での入居者説明会（4月・10月）、防災訓練（10月）も引き続き行っているが、留学生・日本人学生混住の新寮が22年4月に完成したので、新寮の留学生も防災訓練などに合同で参加させることにした。ガイダンス後、国際交流会館入居者説明会後は、同窓会（浜松工業会）からの援助を受けて、交流パーティーを開催し、留学生、日本人学生、教職員の交流を図っ

ている。

海外留学フェア等の実施により、海外留学に関心を持つ学生の相談も多くなり、実際に留学する学生数も増えた。今後は、留学前、留学後に留学生との交流の機会を設けたいと考えている。

浜松キャンパスでは、15年以上前から留学生、外国人配偶者のための初級日本語クラスを開講しているが、クラス担当講師の謝金を浜松工業会から支援を受けている。

(以上、袴田)